

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201146		
法人名	社会福祉法人鶴亀会		
事業所名	グループホーム龍ヶ岳		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町大道158番地		
自己評価作成日	平成22年 9月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4373201146&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成22年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方のその人らしい尊厳ある姿を大切にしています。くつろげる場所の確保と混乱せずに済む心づかいをしています。またその上で、月にお一人づつ生活改善月間としてスタッフ全員で取り組み処遇向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「情報ノート」「施設介護支援経過」などで利用者の日々の様子を詳細に記録しており、理念である「その人らしく」過ごせるように、家族や地域との連携を大切にされており、災害や緊急時等には隣接する母体法人特養からのバックアップがあり安心。職員の自主性を大事にし、1日の出来事は職員一人ひとりが直接施設長に報告するシステムで、気づきやアイデア等は否定せず、先ず実践での利用者支援に活かされている。また、利用者の家庭訪問を行い、施設では話しにくい意見や質問を聴くことで気持ちをくみ取り、家族から信頼関係を深めたり、新たな情報も得るなど、よりよいケアの実践に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	理念は「その人らしく」。利用者一人ひとりの好む生活環境作りのために、きめ細かに記録された「情報ノート」を活用して、職員間の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りには参加していないが、獅子舞や子供御神輿の訪問をお願いし来て頂いている。	地域の秋祭りで子供神輿や獅子舞を楽しみ、小中学生の夏休みワークキャンプを受け入れるなど、若い世代との交流が行われている。また法人母体の特養には和太鼓があり、夏祭りや多様な地域の式典に呼ばれ、職員が太鼓の技を披露する等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の成果を地域の方に伝える場合は、運営推進委員会の場以外は今所ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるように配慮をしている。	メンバーは上天草市地区住民代表や行政・消防隊長・家族代表・管理者・計画作成担当者からなり、年6回開催。5年間継続しているので、委員とは馴染みができ、遠慮のない質問が出るなど、安定した会議になっている。今後、更なる意見が出るよう、議題や仕組みに変化を付けると良いと思われる。	運営推進会議メンバーに民生委員や商工会・婦人会等から新しく参加をお願いするなど、変化を付けるのもよいと考える。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の方の、運営推進会議以外の行き来をする機会が少ない。	「高齢者ふれあい課」担当者とは運営推進会議の以外にも、町村合併後の福祉業務の区分けや捉え方など、地域課題も多様にあると考えられるので、更なる連携で地域の高齢者問題など、協同での取り組みに発展すると更に良いと思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方が外出されそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	ホームでの介護に「拘束は有り得ない」と全員が捕らえ、日常の対応を職員間で注意しあっている。何度も外出をする入居者にはそつと後ろから付き添う職員と、ホーム内で「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」と、さりげなく声掛けする職員とが連携する姿が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明を行っている。重度化や看取りについての対応、利用料金については詳しい説明を行い同意を得ようとしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。	家族からの意見や要望を引き出す工夫として、家族の元に向いて家族とのコミュニケーションを図っており「情報ノート・家庭訪問」に、聞き取りを記録して運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例の研修会の他、随時話し合える機会を設けている。	職員は日常の生活の中から得た気づきや意見・質問を会義で出し合い、「まずはやってみよう」と否定しないで生活支援に意見を取り入れている。また、一日の出来事を職員各々が施設長に直接報告するシステムが作られ、職場挙げての意見反映が可能な環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修を行い、外部研修にも習熟度の段階に応じて積極的に参加し、研修報告の機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用についての相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげる等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側、という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう、場面づくりや声掛けをしており、入居者の方から「お互い様」の言葉がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの情報共有に努め、本人様と一緒に支えるために支援していることを伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの商店や美容院に行き、知人の方と会話ができるよう、出かけて行く機会を作っている。	家族や地域との繋がりを大切にしており、老人会の訪問から、昔馴染みの友人が訪ねて来るようになった例など、県発行の施設の取り組み事例集「今を生きる・この地で生きる」で紹介される等、元気な時からの人間関係継続が大切にされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を交換し、全ての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、家族様からの相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、声を掛け、把握に努めている。希望意向があった場合はすぐに記録するようにしている。	生活歴や習慣など利用者との会話や家族、友人等から得た情報をその場で「情報ノート」に記録して、職員間で共有しており、ケアプランの見直しにも繋げて「その人らしく」暮らせるためのヒントとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、ご本人や家族の方から聴き取りを行っている。又、ご本人から聴いた事をすぐに記録するノートがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、出来ないことより、出来ることを注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃のかかわりの中で意見を聞き、反映される様にしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換を行っている。	「施設介護支援経過」に書かれた利用者の日常の様子は、家族に提示され、記録を熱心に読む家族の姿は職員の励みとなっている。また、利用者の状況と情報の把握は、家族とスタッフの共有財産で、ケアプランの作成と実践に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や、ご本人の言葉を記録しており、それを職員が確認できる様にし、勤務前の確認は義務付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、地区区長、消防指導隊長さんと意見交換をする機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	病院は主に上天草病院を利用しているが、2名は以前からの掛かり付け医へ通院している。入院と重篤な場合以外は職員が付き添い、症状は医師の言葉をそのまま記録して、家族への確認と報告を守っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に状態変化に応じた支援を行える様にしている。看護職員がいない場合でも、電話連絡により指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援に関する情報を医療機関に提供し、三日に一回は職員が見舞うようにしている。また家族様とも回復状況等、情報交換をしながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応指針を定め、入居時に意志確認書を記入している。	2名のターミナル経験がある。この際は母体特養の安静室を利用し、スタッフの付き添いが出来て看取りが可能となったもの。現在の事業所の体制では終末期の支援について可能かどうかの対応指針を定めている。入居時に家族の意思を確認書に記入するシステムがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応マニュアルをスタッフの部屋の壁に貼り、常にイメージできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	母体法人の特養と合同の避難訓練を年6回実施。消防署との連携でAEDの使用法や消火器の取り扱い方など、夜間想定も含めて対応している。また地域の防災訓練の際には、法人を中心とした様々な非常時想定訓練計画も予定している。	消防車が入りにくい立地にある施設のため、今後も地域住民の理解を得て協力体制がより強固に図られることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まず本人様の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	昼食時に誰にも邪魔されず一人で食べたい人には本人の希望する場所の設定され、職員の説明を受けながらの食事風景が見られた。食後のトイレ、歯磨きやうがい等、一人ひとりの表情や動作を見ながら、さりげない声かけと誘導が行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況に合わせ、本人様が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人様の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、片付けを一緒に行ってもらっている。	献立は、食の細かい人が栄養不足に陥らないよう好き嫌いも勘案し、料理本等見ながら利用者と相談して決められている。季節毎の行事食も工夫され、今年一番人気は山菜御膳会。「おいしかった!」の一言が職員の励みになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も個々に合わせて確認するようにし、ご本人の好きな物や食べやすいものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回、うがいを実施して頂いており、夕食後は歯磨きを本人の能力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パッド類も本人様に合わせて検討している。	排泄自立の方は3名。他の利用者にも時間を見ながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの支援が行なわれている。男性職員の介助に抵抗は無く、信頼関係が保たれている様子が窺えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしている。又、腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望時に入浴して頂いており、入浴を拒まれる方に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって気分よく入浴される様配慮している。	入浴は毎日や1日おき、時間も昼間や就寝前など、利用者の希望に合わせた支援がある。季節毎に菖蒲湯やゆず湯などを取り入れ、入所者の気持ちに添うような演出での支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握できるよう、最新薬情報としてファイルしている。又、法人全体での薬についてのテストも時々あっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩だけでなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。	季節毎のイベント(初詣・花見等)の他にも介護度や、希望に合わせて美容院や買物など外出支援を行っている。近くにある「えびす茶屋」や「ちゃんぽんのおいしい店」など人気。肥後狂句の好きな方はデイサービスに出かけ、ホーム以外の人達とを楽しい時間を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所が管理している人でも、外出時のお金は自分で払って頂けるように、お金を手渡すなど工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月近況報告を行い、入居者本人にお願いして書いて頂くこともある。又、手紙や絵手紙等も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆず湯や菖蒲湯、鍋料理や山菜御膳会など、五感刺激と季節感を感じて頂く事を意識した工夫をしている。	天草の海が一望でき、四季折々の変化が楽しめる風光明媚なロケーション。入所者と職員の顔写真が団扇に貼られた「家族の写真」が玄関に飾られ、家庭的な設えの室内で、利用者ひとり一人の定位置があり、静かな生活環境が保たれている。	何時も同じような佇まいは、利用者の安心に繋がるが、玄関口の飾り付けなどは、四季や年度毎の変化があると、利用者の話題づくりにも貢献するのではないかと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の人の気配を感じながらも、一人で過ごせる居場所作りの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを、生活スタイルに合わせて用意している。	箆笥等の持ち込みを支援しており、シンプルな部屋、家族の写真や置物等の多い部屋など利用者ひとり一人のこれまでの暮らしに合わせた部屋になっている。居室の配慮については、見た目の個性化よりも本人の満足を優先している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人様の力でやって頂けるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。		